



齋藤町長による講話

今後は、コスト削減などを図るため学童保育所の運営やごみの収集について、民間委託したいと思っています。また、少子高齢化に伴う福祉施策として、4月から医療費の無料化を小学校6年生まで引き上げ、子育てしやすい環境にしていきたいと考えています。

次に、役場新庁舎の建設については、約95%が完成し内装工事などを行っているところです。2月からは植栽工事が始まり、各種検査後3月末には引っ越しをして4月1日から新庁舎で執務を開始する計画です。分散していた福祉・教育・環境の分野も1か所で手続きが済みますので住民サービスの向上につながると思っています。

さらに、平成17年度からは県内初の制度である「地区担当職員制度」を導入し、町職員を16行政区に割り当てて住民の意見収集に取り組み計画です。町民と行政が協働するまちづくりを進めるため、住民と同じ感覚で地区の会議などに参加し、質問に対しての説明や

要望を聞いて町政に反映できるような制度を4月から設けたいと考えております。

質疑応答

環境問題

問 蛍の飛び里が理想ですが、少し目標を落として、せめて蛙の繁殖できる環境を町の一部に作ってください。

答 農薬の使用やコンクリートの用水堀などになってきたことで生活環境が変わり、蛍や蛙、魚などが住みにくくなってきたいると思います。町では、豊かな自然を将来にわたって良好に保全し、快適環境を創造していくため環境基本計画をすでに策定しております。この計画に基づいて環境への配慮を行っていただき、公共下水道への加入など皆様のご協力をいただければ、将来は水がきれいになり魚が住める時代が来ると思いますが、皆さんも環境浄化に引き続きご協力をお願いいたします。また、町でも努力していきたいと思っております。

防災対策

問 昨年は台風・地震と相次ぐ災害で大変な年でした。幸いに当町は、大きな被害もなく過ぎほつとしましたが、寒さに震える被災者の報道を見るたびに災害に対

する自分の心構えの不足を強く反省させられます。

そこで、当町では、何をどうへ、人口比にしてどのくらいの非常食備蓄があるか、個人の避難に対する指導など、どのように考えておられるか教えてください。

答 町では、日ごろから防災に強いまちづくりを積極的に推進しています。自主防災組織は、いち早く区長さんを中心に編制しています。また、地震や洪水のときの避難場所等を案内した洪水ハザードマップを作成し、毎戸に配布したほか地震時の心構えを示した地震に関する防災用下敷きを作成し、小学生に配布しています。

備蓄状況は、東・西小学校や社会体育館に設置されている防災倉庫に食糧が約5,000食、飲料水が15ℓ容器で約900本、備品として炊き出し釜、浄水装置、毛布、救急箱など多くの防災必需品を備えています。皆さんは、普段から非常用備蓄品などの準備をして災害時に避難するときは、火を

消して、安全性を考えて行動することが大切であると思えます。

郵便局誘致

問 今後、明和町の中心地に郵便局などの公の機関を誘致して、町の活性化を図るべきであると思えますがいかがですか。

答 町内の郵便局は2か所に設置され、館林市・邑楽郡内では人口に対し設置比率が高い状況です。また、全国に設置されている約2万5千の郵便局は郵政民営化と大改革が行われようとしている中ですので、距離的な不便さもあると思えますが、新たに設置することは難しいと思えます。しかし、誘致に關しての希望はありますので、努力はしたいと考えています。

町有地の活用

問 町の不必要な土地があるので、これを活用すべきであると思えますがいかがですか。

答 中央保育園や第1浄水場、現駐在所の各跡地については、町民約200人で構成する町長の諮問機関「明和町懸案事項検討委員会」で慎重に検討していただいております。役場跡地等利用を含めた3つの部会に分かれ、利用方法について今後、答申していただく予定になっておりますので、答申書を尊重して有効に利用していきたいと考えています。



質問を行う寿学級生